

インフルエンザ定点当たり報告数

インフルエンザは定点把握対象疾患であり、医療機関の中から選定し、協力していただいている定点医療機関からのみ患者数が報告 3 ならば、1 つの医療機関で 1 週間に 3 人のインフルエンザ患者を診療した、ということになります。

この数字が 1 以上であれば、その地域は流行レベルに入ったことになり、10 以上なら注意報レベル、30 以上なら警報レベルの流行となります。

○2019-2020 シーズンの全国の定点報告（国立感染症研究所調査）：

2019 年第 38 週（9/16-9/22）の定点当たり報告数が 1.16 となり、全国的な流行開始の指標である 1.00 を超えました。

2018 年は、第 49 週で定点当たり報告数が 1 を超えており、2019 年が例年より早く 1 を超えたことから、国立感染症研究所による報告が 38 週から開始されました。39 週以降 1 未満となり、42 週で 0.72 まで低下しましたが、43 週（10/21-10/27）0.8、44 週（10/28-11/3）0.95 と再度上昇してありました。45 週で流行開始の指標である 1.00 を上回りました。今シーズンは、50 週から 5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でした。

12 週で 1 未満となり、流行レベルではなくなりました。

2020 年第 12 週の定点当たり報告数は 0.54（患者報告数 2,654）となり、前週の定点当たり報告数 1.29 よりも減少しました。

5 週（1/27-2/2）まで注意報レベル（10 以上）の流行でしたが、12 週で 1 未満となり、流行レベルではなくなりました。

都道府県別では青森県（2.18）、岩手県（1.65）、石川県（1.60）、岡山県（1.54）、京都府（1.15）、富山県（1.04）、沖縄県（1.02）、大阪府（1.02）、秋田県（0.91）、福井県（0.81）の順となりました。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、直近の 5 週間（2020 年第 8 週～2020 年第 12 週）では B 型（59%）、AH1pdm09

(39%)、AH3 亜型 (2%) の順となっていました。

詳細は国立感染症研究所ホームページ

(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-map.html>) を参照してください。

○2019-2020 シーズン 長崎市、長崎県の定点報告状況 (長崎県感染症情報センター報告より) :

2020 年第 12 週 (3/16-3/22) のインフルエンザ報告は、長崎市 (0)、長崎県 (0.6) で、第 11 週 (3/9-3/15) 長崎市 (0.24)、長崎県 (1.01) と比較すると、長崎市、長崎県ともに減少しました。

いずれも流行レベルの指標 1 を超えておりました。50 週以降の報告数が 10 以上 (注意報レベルの流行) となっていましたが、6 週までに注意報レベルの流行がおわりました。11 週以降で 1 未満となり、流行レベルではなくなりました。

長崎市は、40 週、41 週、42 週と流行レベル (1 以上) となりましたが、41 週をピークに減少し、43 週では 1 未満となりました。しかしながら、44 週では、0.94 と再度増加し、45 週で 1 を超えました。以後、流行レベルを維持していましたが、11 週で 1 未満となりました。

◎長崎県は、39 週以降 1 未満となりましたが、長崎市が 40-42 週で 1 を超え、流行レベルとなりました。43 週で 1 未満となりましたが、45 週で 1 を超えました。今シーズンは 50 週から 6 週 (2/3-2/9) まで報告数が 10 以上 (注意報レベルの流行) でした。7~11 週は流行レベルでしたが、12 週で 1 未満で流行レベルではなくなりました。今後も注意が必要な状況は続いています。

(長崎県感染症情報センターHPより抜粋、1 部改変)

インフルエンザ等の感染予防のために、十分な休息、手洗い、うがい、マスクの着用等を心掛けてください。インフルエンザが疑われる症状として、のどの痛みや鼻汁・鼻づまり、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身のだるさ等がみられましたら、早めに医療機関を受診してください。